

これまでのとりくみ



全国学力・学習状況調査の結果より



これからのかたち

【教育目標】豊かな心と健やかな体をもち、自ら考え行動できる子どもたちの育成

- 年度初めに「算数校内テスト」を実施。前学年での定着度を把握し、サポートや復習に生かす。
- 週初めの月曜日に毎週読書タイムをとる。
- 朝学では、国語科の新出漢字や試写などに取り組む。
- 家庭学習の手引きや自学の取り組みを生かし、目的をもった家庭学習の習慣の推進をする。
- 授業規律や教室環境を整える声かけ。その定着をはかるための「月1チェック」を実施。
- 説明文の単元の「つけたい力」と「単元のゴールの姿」を大切にした逆向き設計の授業づくり。
- 子どもたちの「したい！」「わかった！」「伝えたい！」を引き出す授業づくり。

教科の結果より**【国語・算数の共通した課題】**

- ・問題文の「何を聞かれているか」の把握が弱いため、「問題文の要点・話の流れ」などをとらえながら読めていない。
- ・本文が長く、情報量が多くなると、粘り強く取り組めない。
- ・質問紙の解答から、「その学習が役に立つと思っているが、『きらい』『できない』」と思っている児童の割合が高い。強い肯定と強い否定の割合が全国に比べて高い。わかる児童と置き去りになっている児童の差が激しいことがわかる。

【国語科の課題】

- ・「順序」「内容のまとめ」「原因と結果」「構成」「段落」「要点・要旨」などの国語科の基礎となる用語の理解や定着の弱さ用語だけでなく、その観点から文章を読んだり考えたりする経験の弱さ。
- ・「関連づけて読む・考えて書く」という意識や経験値の不足。(2つの資料や情報、条件を関連づけて考える)

【算数科の課題】

- ・算数科では単純な計算はある程度できる児童も多いが、置き去りになっている児童も一定数いる。
- ・算数科のものの見方、考え方方が弱い。(「もとにする」の意味・割合と量のちがい・位取り表の見方など)
- ・考え方を、数や式、言葉を使って表現する経験が不足している。絵や図を使って問題解決する経験の不足。

★教員が「チーム意識」を大切に

- 日新小学校の児童の「よさ」「課題」を共通認識する。
- その「課題」はどこから来るかを考え、学校(学年やクラス)や授業でできることを話し合い共有する。
- それを軸にし、年度や学期の取り組みを明確にし、スマールステップで、みんなで子どもを育していく意識を持つ。

★授業や生活において

- 学習環境や学習規律を大切に…価値づけをしながら、全員で声かけをする。(「何のため」か教師が自分の言葉で)
- 学習の基礎基本の定着…音読や漢字・文法・四則演算などの計算を継続的に復習する。(つまずきの把握が大切)
- 自分の考える力をつける…1時間に1つ、「問い合わせ」「問題解決」を大切にした授業づくりを行う。
自分の考えを、文章や図、絵で表す「考えて表現する」ことを繰り返していく。(低学年から)
- 学習の見通しを大切に…単元のゴールや今日の学習を子どもと共有し、「めあてに対しての自分のふりかえり」を行い、一人ひとりの成長を認めていく。
- 子どもの「したい！」「わかった！」「伝えたい！」を促す授業づくり。子どもの状態をまずは教師が認識。教師自身の課題や希望を大切に、1つのチャレンジを教師同士でも認め合う交流授業を。
- 説明文の授業を重点におき、考えを論理的に伝えるための「順序」「内容のまとめ」などを系統的に習得させる。
習ったことを生かして、他教科でも関連付けて自分の考えを書いたり資料を読み取ったりすることを共通認識する。
- ICT活用について、各学年の実態に応じたスキルの定着に努めるとともに、それぞれの子どもや学習に合った効果的な活用を推進していく。